

令和5年度「ちばっ子の学び変革」推進事業（「学力・学習状況」検証事業）研究状況報告書

市川市立第六中学校

1 学校紹介

市川市立第六中学校は昭和34年開校、市川市の中心部に位置している。鬼高小学校と稲荷木小学校を学区としており、大多数の生徒がこの2つの学校から進学してきている。近隣に大きなショッピングセンターがあるが、道を一本入ると閑静な住宅地である。64年目を迎える伝統ある学校であり、592名の生徒が学校教育目標である「やさしくたくましい生徒～優と逞～」を合言葉に、活気あふれる学校生活を送っている。京葉道路の市川インターも学区内にあり、近年の外環自動車道の建設など環境にも大きな変化がみられる。

2 研究主題

一人一人が主体的に学び、取り組み、行動できる生徒の育成
～小中連携を推進して基礎・基本の定着を図り、個性を伸ばし可能性を広げる授業の在り方～

3 研究の概要

(1) 生徒の実態と課題

以下は、令和5年度に実施した全国学力・学習状況調査の結果である。

- ◎ 5ポイント以上上回っている
- 5ポイント未満上回っている
- △ 5ポイント未満下回っている
- × 5ポイント以上下回っている

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			千葉県との比較 (公立)	全国との比較 (公立)
全体		15	◎	◎
学習指導要領 の領域	A 数と式	5	◎	◎
	B 図形	3	◎	◎
	C 関数	4	◎	◎
	D データの活用	3	◎	◎
評価の観点	知識・技能	10	◎	◎
	思考・判断・表現	5	◎	◎
問題形式	選択式	4	○	○
	短答式	6	◎	◎
	記述式	5	◎	◎

平均正答率がすべての領域において、県と全国を上回っており、特に「Dデータの活用」が全国と比べ、大幅に上回っている。一方、「C関数」が全国と比べてやや上回っている程度に留まっており、課題と考えている。また、無答率が千葉県や全国に比べて低く、難しい問題でも諦めずに取り組み、自分で導き出した答えを記入していることがわかる。

次に、生徒質問紙調査の結果である。

- ◎ 5ポイント以上上回っている ○ 5ポイント未満上回っている
△ 5ポイント未満下回っている × 5ポイント以上下回っている

質問内容		肯定的回答
数学の勉強は好きですか	千葉県との比較	○
	全国との比較	○
数学の勉強は大切だと思いますか	千葉県との比較	◎
	全国との比較	○
数学の授業の内容はよく分かりますか	千葉県との比較	◎
	全国との比較	○
数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	千葉県との比較	△
	全国との比較	△

「数学の勉強は好きですか」「数学の勉強は大切だと思いますか」「数学の授業の内容はよく分かりますか」という質問に対し、肯定的に回答した生徒の割合は、県や全国平均を上回っている。一方、「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という質問に対しては、肯定的に回答した生徒は全国平均を下回っている。このことから、学んだことを社会や日常生活につなげることが課題を考え、主体的に学習に取り組む生徒の育成を研究の柱と考えた。

(2) 学力向上のための取組

① 小中連携を意識した小学校の学習内容の復習（見いだす）

小学校で既に学習した内容について、「小学校で勉強しているよね？」と問いかけると、「小学校で勉強した」「覚えている」という生徒もいれば、「覚えていない」「忘れた」という生徒や、「勉強していない」という生徒もいる。例えば、中学校2年生で学習する「合同」の単元は、小学校5年生でも学習しているが、間が3年間空いているため、一度学習したことが忘れてしまっていることが原因と考えられる。

そこで、授業では小学校で使用した教科書を用いたり、指導者用デジタル教科書を使ったりするなど、小学校の既習内容の復習を適宜行い、系統性を意識させることで、引き出しの在り处を見つけるヒントとしている。また、令和4年度には、学区の小学校の先生方を交えた授業研究会を行い、授業参観後の協議会にも小学校の先生に参加していただき、意見を取り入れながら授業改善を図ってきた。



小学校と関連がある単元について、事前に教材研究を行い、効果的に活用している。

② 教え合い、学び合い活動を通しての協働的な学び（広げ深める）

ペアやグループ等での教え合い、学び合い活動を積極的に行われている。生徒がサブティーチャーとなり、わからない生徒が理解できるように教えている。



③ 振り返りシートの活用

(まとめあげる、見いだす)

振り返りシートを毎時間、授業の終わりに行っている。学習のめあてを記入し、授業の取り組みと理解度を、

- A よくできた
- B できた
- C できなかった

の3段階で自己評価を行う。

「授業を振り返って」の欄には、授業で分かったことや疑問に思ったこと等を、記入している。

数学 学習の記録 NO. _____		1年 組 番 氏名()			
月日	学習のめあて	授業の取り組み	理解度	授業を振り返って	確認
/		A B C	A B C		
/		A B C	A B C		
/		A B C	A B C		
/		A B C	A B C		
/		A B C	A B C		

毎回の授業後に集め、教員がコメントを書いて返却している。生徒の理解度を把握したり、疑問に答えたりすることができる。

④ 検証授業の実施

『『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム』における「既習の内容や方法を振り返る」「友達と互いに学び合う」「学んだことをまとめる」ことに重点を置き、検証授業を2回行った。

第1回 令和5年9月27日(水)

第1学年 単元名「方程式」

第2学年 単元名「一次関数」

第3学年 単元名「二次方程式」

全国学力・学習状況調査の課題を意識し、第1学年「方程式の利用」と第3学年「二次方程式の利用」では、日常生活で身近にあるものを教材にした。第1学年では薄力粉と砂糖の重さを使った比の利用の問題を、第3学年では正方形の紙の枚数とマグネットの個数の関係を扱った。また、第2学年「一次関数」では、1人1台端末の電卓機能を活用し、各自が様々な一次関数のグラフを作成し、それをもとにグラフの傾きや切片を求める問題を作成した。

第2回 令和6年1月24日(水)

第1学年 単元名「平面図形」

第2学年 単元名「図形の性質と証明」



(写真1)



(写真2)



(写真3)

- ・「既習の内容や方法を振り返る」ために、基本的な作図方法を動画で確認できるようにした。1人1台端末を活用し、手元で確認することで生徒がより理解しやすくなった。(写真1)
- ・「友達と互いに学び合う」ために、グループ活動を取り入れた。難しい課題ではあったが、お互いに

学び合うことで、疑問が解決したり、新たな発見につながったりしていた。(写真2)

・「学んだことをまとめる」ために、「身近なところに数学が隠れていないか」をインターネットで調べてまとめた。東京タワーの脚の部分や建物の耐震部分など、身近なところにも合同な図形があることを知ることができた。(写真3)

(3) 加配教員(学習サポーターを含む)の活用

時期や単元において、TTを実施している。

4 成果

・小学校の教科書や指導者用デジタル教科書を活用し、小学校の学習内容を復習することで、既習事項の確認がスムーズにできた。また、小学校で学習したことから本時の学習課題に向けて新たな問いの発見につながった。(見いだす)

・教えられる生徒の理解につながるとともに、わかりやすく教えることを意識することで、教える生徒の理解もより深まった。また、多様な考えを聞くことで新たな考えに気付いたり、お互いの考えのよさを知ることができたりするなど、深い学びにつながっている。(広げ深める)

・振り返りシートを活用することで、授業で分かったところ、疑問に思ったところ、新たに発見したこと等を自分の言葉でまとめることができるようになった。(まとめあげる)さらに、疑問に思ったところから、新たな問いの発見にもつながった。(見いだす)

5 今後の課題

・中学校の教材研究はもちろんのこと、小学校の教材研究が欠かせない。何年生で、どのような内容を学習しているか単元の系統性を把握する必要がある。そこで、学区の小学校にお願いをして、小学校の教科書を中学校で、中学校の教科書を小学校で活用することで、系統性を意識した授業作りをしていきたい。

・教え合い活動が「答えを教えるだけ」の活動になってはいけない。相手がどこまで理解できており、どこから理解できていないかを把握することで初めて教えることができる。そのために、「やり方や答え」だけでなく、「どうしてそのやり方でできるのか」を意識しながら説明する大切さを生徒に伝え続ける必要がある。

・生徒が記入した振り返りシートを、毎回教員が点検し、一言コメントを書いている。1クラス約20分かかり、4クラスあった場合には、約1時間30分かかる計算になる。そこで、ハンコを押すだけにしたり、アンケートForm等を活用したりすることも考えたが、教員のコメントによって、生徒の意欲が向上したり、授業で分からなかったところが理解できるようになったりしている。次年度も振り返りシートの効果的な活用を研究していきたい。